



地球環境や地域社会、人に配慮した「エシカル消費」を喚起させ、CO2削減の目標を達成するための「食のイベント」みなとまち 食のEARTH Fes」が来月23、24日、横浜市中区の日本大通りで開かれる。関内活性化推進、飲食店経営者で組織する「かながわアソシエーション」などが共催で開く。実行委員会が構成された。開催までのいきさつ、イベントを通じて発信したいことなどについて、委員長の近藤一美さんに聞いた。聞き手 遠藤 陽子

「そもそもこのきっかけは8年前の東日本震災にさかのぼると聞きます。」

2011年3月の震災直後、各地でイベントが中止になり、自粛ムードで、来ないお客さんを待つより、現地に吹き出しに行くと、私たちが思い立ち、目下中にながわイベントを組織。4月17日、1度目の吹き出しを宮城県の上郷地区で実施しました。何かが現場を訪問しましたが、そこで人が受けてくれる販売ルートを決めていくことが

近藤 一美 実行委員長に聞く

ここから始まるSDGs

来月、中区で「食」のイベント
子どもの未来、環境考える契機に



「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

通りで開催を企画。2日間、約15万人が来られ、来月23、24日、中区で「食のイベント」みなとまち 食のEARTH Fes」が来月23、24日、横浜市中区の日本大通りで開かれる。関内活性化推進、飲食店経営者で組織する「かながわアソシエーション」などが共催で開く。実行委員会が構成された。開催までのいきさつ、イベントを通じて発信したいことなどについて、委員長の近藤一美さんに聞いた。聞き手 遠藤 陽子

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

「EARTH Fes」の開催を企画、運営する近藤一美

2019年10月23日付神奈川新聞紙上
「SDGs横浜の挑戦」にて、
近藤実行委員長インタビュー記事掲載

2019年11月19日付神奈川新聞紙上
広域面にて、「ハマのおすそ分け」などイベント紹介記事が掲載される。

「食品ロス」減に関心を

23、24日 横浜で物々交換催し

まだ食べられるのに廃棄される「食品ロス」削減に気軽に参加してもらおう試みが、横浜市中区の日本大通りで23、24の両日に開かれるイベント「みなとまち 食のEARTH Fes」内で行われる。「ハマのおすそ分け」と題したブースを設置。食品の提供者がブースにある好きなものを持ち帰れる「物々交換」の仕組みを採り入れており、関係者は多くの参加を呼び掛けている。

ブースの設置は、神奈川新聞社などで行く「横浜メディアビジネス総合研究所」、市資源循環局の協働事業で、食品ロス削減運動の一環。摘果ミカンを使ってドレッシングなどを製造・販売するアマンダリーナ合同会社(同市金沢区)や、食品ロス削減を目指す「フードバンクかながわ」などが協力している。

受け付ける食品は、レトルト食品など未開封の市販食品(消費賞味期限が5日以上で、常温保存が可能なもの)のほか、酒類や野菜、果物も対象。提供するものもなくても、持ち帰りだけでも可能という。アマンダリーナ代表の奥井奈都美さんは「物々交換を楽しんで」

と話している。

また、同市立西柴小学校(金沢区)の児童も今回の試みをサポート。奥井さんが出前授業をした縁で、子どもたちはブースを飾る絵を描き、呼び掛けに「役を買っている」写真。

イベント「みなとまち 食のEARTH Fes」は、一般社団法人の関内活性化が主催。国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」をテーマに、多くの飲食・物販ブースが並び、ほか、ステージでの催しもある。

イベント開催時間は両日とも午前11時から、23日が午後8時、24日が午後6時まで。食品提供はイベント前でも受け付け可。問い合わせは、神奈川新聞社クロスメディア営業局 ☎045(227)0823 平日午前10時～午後6時。(遠藤 陽子)



「食」を通じて SDGs体感

中区
イベント

食を通じてSDGsを体感するイベント「みなとまち食のEARTH FeS」が11月23、24日、中区の日本大通りで開催された。関内活性化会主催。ヨコハマSDGsデザインセンターなど共催。

初日は、SDGsに信念を持つ飲食店経営者らによる座談会が行われ、環境への寄与など生産・加工品の背景を明らかにし、その価値を知る消費者に選んでもらうことの大切さを語り合った。横浜ビール創設者で、太田ハッピーブランドの太田久士代表は「長年培ってきた文化を伝承さ

せるのに必要なのは発信力」と説いた。

好天に恵まれた2日目は多くの人が来場。被災した福島県の観光施設のバナナの葉を皿に使用したり、賞味期限の近い菓子をバラで安く提供したりと、それぞれに工夫を凝



SDGsを体感できるイベント「食のEARTH FeS」。バナナの葉を活用して作った皿も並んだ

らした各店に人垣ができた。家庭や職場で眠る食品を持ち寄り循環させる「ハマのおすそ分け」ブースでは、関東学院大の学生や市立東高校の生徒が熱心に呼び掛けたこともあって、やりとりが次々成立。2日間で約50*の食品ロスが削減できた。SDGsに貢献した事業者を選ぶコンテストでは、ハチドリコーヒ

ーなど4社が表彰された。近藤一美実行委員長は「来場者と出店者、学生らみんなが一つになって、地球環境や子どもたちのために行動しなければと実感できた。ここからスタートしたいと話した。寄付金や売り上げの一部は、子ども食堂の運営や稚魚の放流などに生かされる。」
(遠藤 陽子)

